



国際交流支援事業について ～各地方自治体の活動について～

(一財)自治体国際化協会交流支援部交流親善課

国際交流支援事業について ～来年度の応募受付中！～

クレアでは、地方自治体や地域国際化協会が主体的に行う国際交流事業のうち、交流の拡大や発展が見込まれ、地域住民等の幅広い参画が見込まれる事業に、対象経費の一部を助成しています。

今回、2018年度に助成を行った21事業の中から、5件の活動を紹介します。

なお、2020年度事業につきましては、現在、応募を受け付けていますので、下記をご確認のうえ、ご応募ください。

【対象事業】

- ・ 姉妹提携または友好提携に係る記念事業
- ・ 文化、芸術または研究に関する交流事業
- ・ 青少年交流に関する事業
- ・ 国際会議に関する事業
- ・ その他地域の特性を活かした交流事業

原則として、新規事業が助成の対象ですが、継続的に行われている事業であっても他の地方自治体や地域国際化協会のモデルとなるような、先駆的な事業であれば対象となります。

【対象団体】

都道府県、市区町村、地域国際化協会

【助成金額】

助成対象経費の1/2以内、上限は以下の金額

海外で行う事業・・・5百万円

国内で行う事業・・・3百万円

【応募締切】

11月29日まで ※詳しくはHPをご覧ください。

<http://www.clair.or.jp/j/exchange/shien/page-5.html>

【お問い合わせ】 交流支援部 交流親善課

Tel : 03-5213-1723 Mail : koushin@clair.or.jp

「日ロ交流推進事業について」(新潟県)

新潟県とロシア極東地域は、1973年の新潟～ハバロフスク間の定期航空路の開設を契機に、経済をはじめ、さまざまな分野での交流を進めてきました。

残念ながら2011年にロシア極東地域との定期航空路は休止となり、現在は夏季チャーター便のみの運航ですが、定期便の復活を目指し、観光、貿易、文化交流など、人やモノの往来を盛んにする取り組みを行っています。

その1つとして2018年度、ハバロフスク市、ウラジオストク市において日本文化の体験型イベントを開催しました。

ハバロフスク市では、新潟県のユリ、トルコキキョウなどの切り花や緑茶を用いた、生け花の技術指導や茶道、書道の体験会を実施し、60人を超える市民の方々に参加いただきました。

ウラジオストク市では、「家庭で楽しむ新潟の逸品」と題し、県内大学生の企画、運営による、おにぎり作り体験会、日本酒カクテルの提供や、金属加工製品、ニット製品等の県産品PRを実施したところ、同地域の日本フェスティバルにあわせ開催したこともあり、多くの来場者でにぎわいました。

2020年には「日ロ地域交流年」を実施することが決まっていますが、本県も引き続き、極東地域との地域間交流の拡大に取り組みたいと考えています。



ウラジオストク市鉄道文化会館「家庭で楽しむ新潟の逸品」

「ニューオーリンズ訪問団派遣事業」 (松江市)

島根県松江市とニューオーリンズ市は、共に小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）が過ごした地であることを機に交流がはじまり、1994年に友好都市提携を締結、以降、青少年交流や、音楽を通じた交流などを行ってきました。2018年、ニューオーリンズ市では街の誕生300周年を祝いさまざまなイベントが開催され、その1つである記念式典に松江市長が招待されたことから、同年4月に本市訪問団がニューオーリンズ市を訪問しました。

本市では毎年、ニューオーリンズ市のフェスティバル「マルディグラ」の松江版として「リトル・マルディグラ」というイベントを開催していますが、訪問団には、このイベントを機に結成され、音楽を通じてニューオーリンズ市を紹介する活動を行っている市民グループのメンバー8人も市民訪問団として加わりました。

滞在中は、記念事業への参加のほか、市民訪問団が大学の音楽科でジャズのクラスに参加、さらには本場のジャズハウスで演奏して松江をPRするなど、大変貴重な機会をいただきました。

また、ニューオーリンズ市の市民グループ等との交流会も行い、友好都市提携25周年となる2019年のリトル・マルディグラに、ニューオーリンズ市から松江市



世界各国の参加者が集まった300周年記念式典



ジャズハウスで演奏する市民訪問団

「海外引揚が結ぶウズベキスタン ホストタウン推進事業」(舞鶴市)

京都府舞鶴市は、ウズベキスタンのホストタウンとしてスポーツ・文化等を通じた交流を続けていますが、そのきっかけとなったのが戦後の海外抑留と引揚です。

第二次世界大戦後、日本人がウズベキスタンに抑留された際、その厳しい生活の中で学校や水力発電所、国立劇場等の建設に貢献したことが、現在の日本人への友好的な感情につながっています。

その日本人抑留者の帰国を温かく迎え入れたまちが舞鶴市であり、海外引揚の縁をきっかけにホストタウン交流を続けています。

この交流の一環として、2018年8月16日から24日の日程で、ウズベキスタンからレスリング・柔道のジュニアチーム計15人をお迎えし、8月21日・22日の2日間にわたり計3回の練習会を実施しました。

練習会には市内の高校生や小中学生等、多くの選手が参加しました。子どもたちは、言葉は通じないながらもジェスチャーやコンタクトスポーツならではの積極的なコミュニケーションを盛んに行い、技術交流・人的交流が実現しました。

同じ競技でも練習方法や技術面に違いもあり、練習会を通じて情報交換ができたことは、お互いにとって有意義なものになったと思います。

これから2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、さらに市民および競技者レベルの草の根交流を深め、大きなレガシーにつながるよう努めていきたいと考えています。



レスリングのジュニアチーム練習会

「東アジア地方政府会合」 (奈良県)

奈良県は、2018年11月1日～3日、第9回東アジア地方政府会合を開催しました。

本会合は、2010年、平城遷都1300年を記念して設立したもので、地方政府が地域の実情を報告し合い、共通課題について忌憚のない議論を行うことで、行政能力の向上や相互の友好・信頼関係の増進を目指しています。日本、中国、インドネシア、マレーシア、フィリピン、韓国、ベトナムの7カ国72地方政府が会員です。

第9回会合には6カ国から39地方政府が参加し、「農林漁業の振興」と「グローバル化社会における人材育成」をテーマに、地方政府の代表が一堂に集まり議論するメインセッション、実務者級によるサブセッションに分かれて活発な議論を行いました。

また、春日大社への夜間拝観・献燈や奈良公園での鹿寄せ体験、各国の料理等を紹介する「東アジアの食フェア」に参加し、交流を深めました。

2019年11月には、第10回の節目となる会合を奈良県で開催し、「観光振興」と「地域で支える福祉・医療の充実」をテーマに討議を行うほか、10周年記念特別講演や会合の歩みを映像で振り返るメモリアル上映等を行う予定です。

今後も本会合の継続的な開催により、地方政府間の友好・信頼関係の一層の増進と、東アジア地域の安定的な発展に寄与していきたいと考えています。



第9回会合の討議風景

「芸術でつながる 世界自然遺産候補地 奄美の 国際交流事業 『AI フェスティバルプログラム』」 (奄美市)

“唄う島” 奄美大島での新たなチャレンジ

シルク・ド・ソレイユ初の日本人ソロダンサーとして、今もドイツをはじめ国際的な活躍をされている谷よう子氏が、奄美市地域おこし協力隊として鹿児島県奄美市に着任したのが2016年6月です。奄美市は、元ちとせ氏や中孝介氏といったメジャーアーティストの活躍により、ひろく知られるようになった「唄の島」です。そのような独自の文化が色濃く残る島で、谷氏による新たなチャレンジがスタートしました。

“伝統” × “革新” × “国際色” で拓く未来

地域おこし協力隊として積極的な活動を展開していた谷氏を中心に、2018年度に「芸術でつながる世界自然遺産候補地 奄美の国際交流事業『AI フェスティバルプログラム』」を実施しました。この中では、6カ国8人のゲストアーティストを島に招へいし、子どもたちを中心とする島の人々と、世界的なアーティストによる文化を通じた国際交流を実現しました。特に、身体表現を通じた交流となったことで、言葉を越えたコミュニケーションが多く見られました。

はじめて、「世界」の「一流」に触れた子どもたちが、将来は谷氏のように、奄美から世界へと活躍することが期待されます。



「奄美 de アート国際フェスティバル」のフィナーレ (中央で花束を持つのが谷よう子氏)